

【保護者の方へ：必ず読みましょう】

～小児用肺炎球菌予防接種について～

対象年齢の方は公費負担（無料）で接種できます。
※ 接種開始年齢により接種回数が異なります。
※ 生後2か月になりましたら接種を開始しましょう！



対象者と接種回数

対象年齢：生後2か月～5歳未満

接種開始年齢	接種回数	接種スケジュール
生後2か月～7か月未満 (標準的な接種方法)	初回3回	標準的には1歳までに27日以上の間隔をおいて3回 ※初回2～3回目の接種は2歳未満までに行い、2歳を超えた場合は行わない(追加接種は実施可能)。また、初回2回目の接種は1歳未満までに行い、1歳を超えた場合は、初回3回目の接種は行わない(追加接種は実施可能)。
	追加1回	初回接種終了後、60日以上の間隔をおいて、1歳以降に1回 (標準的な接種期間は、生後12か月～生後15か月の間)
生後7か月～1歳未満	初回2回	標準的には1歳までに27日以上の間隔をおいて2回 ※ただし、初回2回目の接種は、2歳未満までに行い2歳を超えた場合は行わない(追加接種は実施可能)。
	追加1回	1歳以降に、初回接種終了後、60日以上の間隔をおいて1回
1歳～2歳未満	2回	60日以上の間隔をあけて2回接種
2歳～5歳未満	1回	1回

■乳幼児の肺炎球菌感染症

肺炎球菌は、身近な細菌で子どもの多くが鼻の奥に保菌しております。体力や抵抗力が低下した時などに細菌性髄膜炎、菌血症、中耳炎、肺炎、副鼻腔炎等さまざまな病気を引き起こします。子どもの細菌性髄膜炎を起こす細菌はいくつかありますが、その原因の2割が肺炎球菌によるものとされています。

■予防接種の効果

ヒブワクチンを接種し、体内に免疫ができると、ヒブが原因の細菌性髄膜炎や肺炎や喉頭蓋炎などを防ぐことができます。小児用肺炎球菌ワクチンを接種し、体内に免疫ができると、肺炎球菌が原因の細菌性髄膜炎や菌血症などを防ぐことができます。

■予防接種の副反応

接種後に、注射部位の症状(赤み、硬結、腫れ、痛みなど)、発熱の副反応がみられますが、通常は一時的なもので、数日で消失します。ただし、稀に海外ではショック、アナフィラキシー様反応(通常接種後30分以内に出現する呼吸困難やじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと)やけいれんなどが報告されています。症状が現れた場合は、医師に相談してください。

■予防接種による健康被害救済制度について

重篤な副反応が予防接種法に基づく予防接種によって生じた場合は、予防接種法による救済措置(医療費・医療手当・障害児養育年金・障害年金・死亡一時金・葬祭料)を受けることができます。

予防接種は、ワクチンを体内に接種して免疫をつくることにより、病気に対する抵抗力をつけ、病気の予防や症状を軽くするためのものです。しかし、人間の体は一人ひとり違いますから体質によって副反応が出ることもあります。予防接種についてよく理解し、かかりつけの先生に体調を診てもらい納得して接種することが大切です。

■この通知は接種が完了していない方へご案内しています。
すでに接種が完了している方はご了承ください。
■予診票がお手元ない方は、子育て支援課までご連絡ください。



本部町役場 子育て支援課 予防接種担当 47-2103